

熊本県の主な渇水年における被害状況

熊本県では、地下水への依存度が高いため、生活用水を初めとして他県に比べて渇水被害を受けにくいという事情がありますが、用水の多くを河川水などの表流水に頼っている農業においては、昭和42年以降5回の大きな渇水被害が起きています。

また、平成6年の渇水においては、農業だけでなく天草を中心に多くの市町村で生活用水が不足する被害もおきました。

農作物の被害状況

年 度	被害の概要
昭和42年	・県で水稲10,800ha、陸稲11,100ha
昭和53年	・県での被害面積は水陸稲2,008ha、野菜1,108ha、果樹5,588ha、飼料作物497ha、桑490haで被害金額は、22億5,663千万円
昭和57年	・県北部地域で作付不能面積158ha、用水不足面積1,437ha
昭和59年	・県の水稲被害は、152ha
平成6年	・県の農作物等の被害額は、約110億円。（果樹関係約70億、野菜約16億、水陸稲等約8億等） 水陸稲等の被害面積は、県内で2,056ha、九州全域で30,600ha

生活用水の被害状況

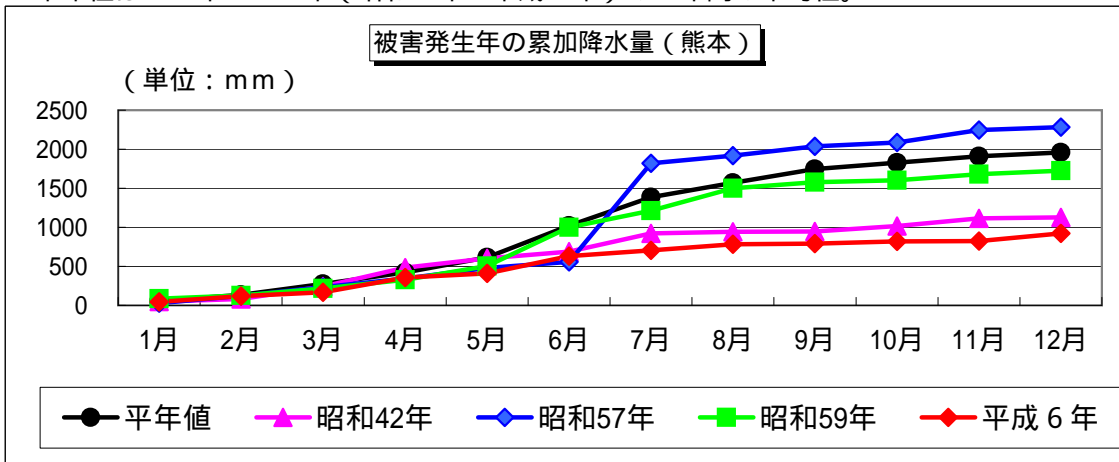
年 度	被害の概要
平成6年	・天草などを中心に、延べ20市町村で43,387世帯の139,950人（県人口の約8%）が時間給水や減圧給水を経験した。また、地域によっては、数ヶ月にも及んだ。

渇水による被害発生年の降水量（熊本）

（単位：mm）

年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	5~10月
平年 値	累加	57.9	134.8	273.0	420.2	615.0	1,018.7	1,386.5	1,571.0	1,746.9	1,827.8	1,907.8	1,957.3	1,957.3	1407.6
	月別	57.9	76.9	138.2	147.2	194.8	403.7	367.8	184.5	175.9	80.9	80.0	49.5		
昭和 42年	累加	51.2	82.1	241.1	481.6	602.4	688.8	922.5	941.7	946.2	1,017.3	1,113.0	1,129.0	1,129.0	535.7
	月別	51.2	30.9	159.0	240.5	120.8	86.4	233.7	19.2	4.5	71.1	95.7	16.0		
昭和 53年	累加	46.5	79.5	133.0	242.5	311.0	756.0	827.0	938.0	1,028.0	1,052.0	1,122.5	1,160.0	1,160.0	809.5
	月別	46.5	33.0	53.5	109.5	68.5	445.0	71.0	111.0	90.0	24.0	70.5	37.5		
昭和 57年	累加	29.0	125.0	234.5	342.5	478.5	557.5	1,820.5	1,917.0	2,035.0	2,088.0	2,244.0	2,284.5	2,284.5	1745.5
	月別	29.0	96.0	109.5	108.0	136.0	79.0	1,263.0	96.5	118.0	53.0	156.0	40.5		
昭和 59年	累加	87.5	129.0	215.5	328.0	504.0	999.5	1,214.5	1,499.0	1,578.5	1,603.5	1,682.0	1,724.5	1,724.5	1275.5
	月別	87.5	41.5	86.5	112.5	176.0	495.5	215.0	284.5	79.5	25.0	78.5	42.5		
平成 6年	累加	46.0	120.0	166.5	358.0	409.5	630.5	706.0	783.5	790.0	819.0	823.5	920.5	920.5	461.0
	月別	46.0	74.0	46.5	191.5	51.5	221.0	75.5	77.5	6.5	29.0	4.5	97.0		

平年値は1971年～2000年（昭和46年～平成12年）の30年間の平均値。



参考) 「九州・沖縄地域における干ばつの農業気象学的解析」（九州農業試験場）
平成6年「渇水の記録」（熊本県）

平成6年渇水被害の状況（生活用水）

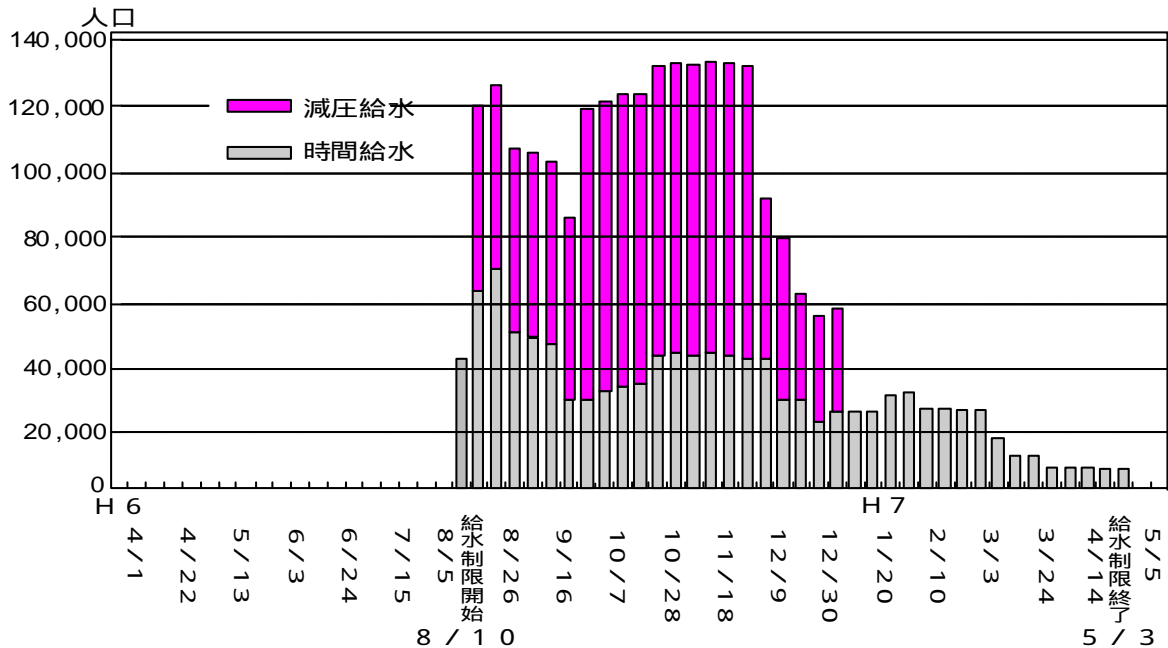
・影響人口（被害を受けた人口）

平成6年の渇水により、熊本県下において時間給水、減圧給水等給水制限を受けた地域は全94市町村のうち48市町村、人口にして約14万人に及びました。

下図に示すとおり、給水制限は8月初旬に一部地域で始まり、8月に広域化し10月末にピークを迎え、12月下旬までこれが続き、その後徐々に解除されたものの、一部地域では平成7年のゴールデンウィークまで影響を残した大渇水となりました。

時間給水と減圧給水の区分も同図中に示しましたが、時間給水で対応したものが長時間に及びました。減圧給水はピーク期間中のみで、これは氷川ダム水位低下に伴う八代郡生活環境事務組合（6町）での給水制限が減圧で対応したことによるものです。

影響人口の推移



・被害区域

平成6年の渇水により被害が生じた地域は、天草をはじめ八代、宇城、芦北等において広範に分布しています。また、被害発生地域の水源について調べてみると、その多くは表流水と湧水でした。

